

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 121人

② 算数 121人

5 留意事項

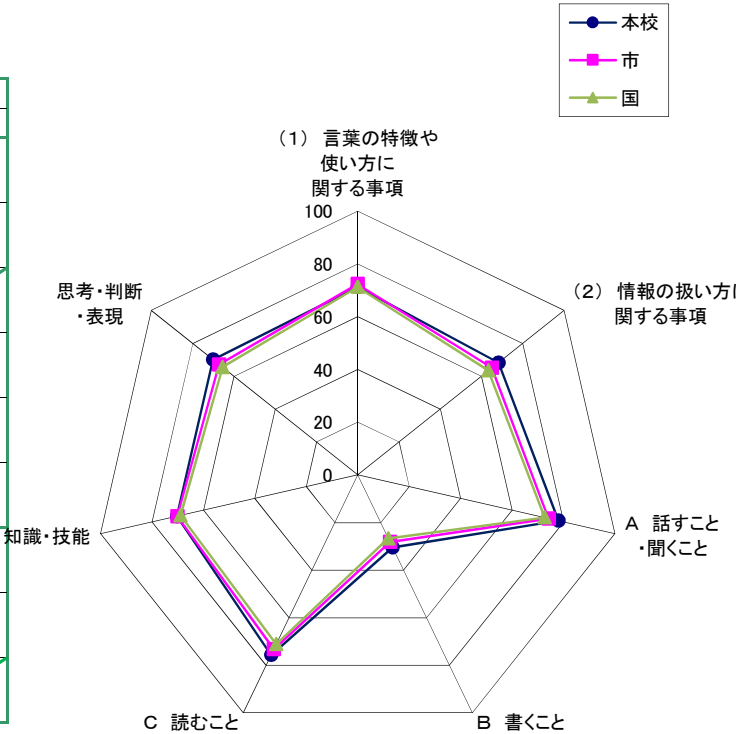
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	71.2	72.3	71.2
	(2) 情報の扱いに関する事項	68.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	78.0	74.2	72.6
	B 書くこと	30.5	28.2	26.7
	C 読むこと	75.7	73.3	71.2
観点	知識・技能	70.3	70.2	68.9
	思考・判断・表現	70.2	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

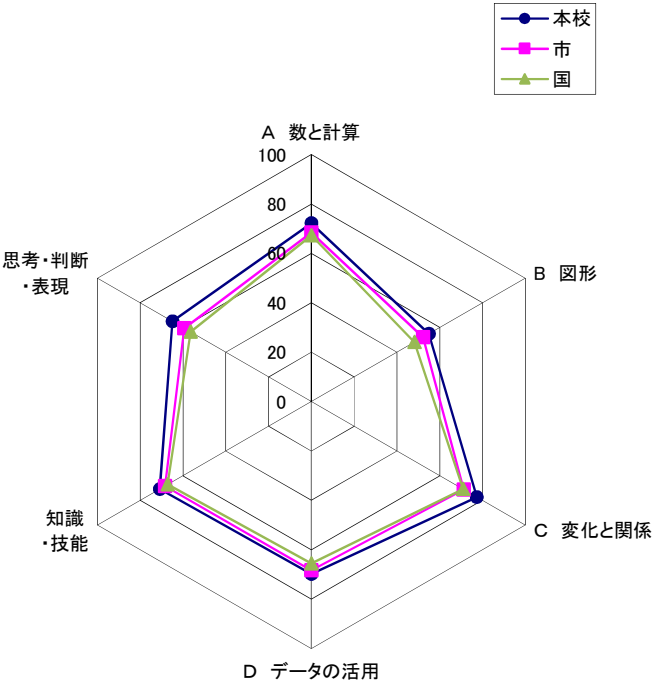
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、全国や市の平均よりやや低い。 ○話し合いの中で発言理由を正しく選択することができる児童が多い。 ○漢字を正しく文の中で使うことができています。 ●敬語の使い方の問題では、正答率が48.3%で全国の平均よりも約10%ほど低く、敬語の正しい使い方を理解することが難しい児童が多い。	・今後も漢字練習に引き続き力を入れて指導し、文章で練習させるように指導を行っていく。 ・敬語の正しい使い方を理解し、正しく文章の中で使っていくことができるように指導する。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○情報がどのように整理されているのか説明されているものを選択する設問では、正答率が70.3%と全国よりも8.3%上回る結果となった。 ●文章と文章の内容の関係性についての問題では、県や全国よりは平均点が高いものの、正答率が66.1%と低い結果となった。	・読書活動を充実させ、文章と文章の内容の関係性について着目できるように指導を行っていく。 ・国語の学習を通して、文章と文章の関連性について正しく理解できるように指導を行っていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○必要のことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことを捉えることに関する設問では、正答率が81.4%と県や全国の平均よりも7.8ポイント上回る結果となった。 ●登場人物の思いについて読み取る問題において、正答率が72%と低くはないものの、県や全国の平均よりは低い結果となった。また無回答率が13.6%と高い結果となった。	・各教科や領域での話し合い活動の場を意図的に取り入れていく。 ・自分の考えをまとめて書く活動を意図的に取り入れ、文章校正を意識させる指導を継続して行っていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国や市の平均よりもやや高い。 ●文章を読み、内容について自分の言葉でまとめ、表現する問題では、県や全国の平均よりは高いが、30.5%と低い結果となった。	・各教科や単元においてまとめを書く活動を意図的に取り入れていく。 ・授業の中でまとめや振り返りを自分の言葉でまとめ、表現する時間を引き続き設定していく。
C 読むこと	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○資料から内容を正しく読み取ることができる児童が多い。 ●資料から自分の考えを考え、まとめること問題では、県や全国平均よりは高いものの、正答率が62.7%であり、苦手の児童が多い。	・資料や文章中から、どの叙述に着目したのかを明確にし、考えをまとめることができるような指導を行っていく。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.2	68.4	67.3
	B 図形	54.9	52.2	48.2
	C 測定			
	D 変化と関係	77.3	71.2	70.9
	E データの活用	69.8	68.3	65.5
観点	知識・技能	70.9	68.4	67.2
	思考・判断・表現	64.9	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国や県の平均より高い。 ○基礎的な計算については概ね理解できている。 ●筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ問題では、全国や県の平均よりは高いものの、正答率が53.4%で理解度が低めであった。	・数の構成、掛け算や割り算の意味、小数や分数のしくみなど、計算の基礎となる基本的な事項について、プリント学習などを通して、知識、技能の定着を図る。 ・問題の意味をしっかりと捉えられるよう、文章問題に繰り返し取り組むようにする。
B 図形	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その特徴を選ぶ問題では、全国や県の平均よりも、10%以上高い正答率であった。 ●切った開いた三角形を正三角形にするための角の大きさを求める問題では、全国や県の平均よりは高いものの、正答率が28%と低い結果となった。 ●二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを記述する問題では、正答率が31.4%と低い結果となった。	・図形について、具体物やICT機器などを活用しながら、実感を伴うものやイメージしやすい学習を取り入れる。 ・図形の定義や性質などについて確実に理解できるよう、繰り返し丁寧に指導を行う。 ・自分の考えを根拠をもって説明できるよう、基礎的、発展的な内容について触れる機会を増やしたり、授業で自分の考えを記述する場面を意図的に取り入れたりする。
C 変化と関係	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く問題では、正答率が93.2%で理解度が特に高かった。 ●示された基準量と比較量から割合を求める問題では、全国や県の平均よりは高いものの、正答率が51.7%と、理解度が低めであった。	・基準量、比較量、割合、百分率などの関係をしっかりと抑えられるよう、プリント学習、AIドリルなどを中心に取り組むようにする。 ・2つの数量の間の関係や伴って変わる2つの量などについて、日常の事象を例に挙げながら、分かりやすく指導する。
D データの活用	平均正答率は、全国や市の平均より高い。 ○二つのグラフから、条件に着目して分かることを記述する問題では、全国や県の平均よりも正答率が6%以上高い。 ●二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶ問題では、正答率が全国の平均よりは高いものの、県の平均よりはやや低かった。	・分類されたデータをグラフや二次元の表に表す活動を多く取り入れ、分類、整理する能力の育成を図る。 ・理科や社会科、総合的な学習の時間など、他教科との関連を図りながら指導する。 ・問題文に書かれている条件をしっかりと捉え、解決していけるよう、読解力の向上に努める。

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問への肯定的回答は93.7%で、全国と比べて10.2ポイント高く、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問への肯定的回答は95.8%だった。よさを認め合い、自己肯定感を大切にしながら居心地のよい学校生活が送れるよう指導を続けていきたい。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問への肯定的回答は、全国と比べて3.3ポイント高く、社会に貢献する大切さについてよく考えていることが分かる。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問への回答で、「ほぼ毎日」と回答した児童は5%で県と比べると20.1ポイント低く、「週3回以上」と回答した児童は26.7%で県と比べると9.9ポイント低かった。一人一台端末を効果的に活用し、授業の中で多く取り入れていくようにしたい。

宇都宮市立石井小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを伝え、深め合う活動の工夫	ペア学習やグループ学習、ICT機器の活用を取り入れながら協働的な学習を積極的に行い、自分の考えを話したり書いたりするとともに、互いの考えを共有する時間を取り入れるように工夫している。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対する肯定的な解答は、88.3ポイントと肯定的な解答の割合が高い結果となった。 ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という設問に関しては、肯定的な解答の割合が、81.7ポイントと8割の児童が意見を交換し考えることへの意欲があることが分かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語「書くこと」の内容や、算数の記述式の設問に関しては、全国や市の平均よりやや高い結果となっているが、正答率が3割となっている設問もあり、課題が見られる。	様々な教科の学習の中で、自分の考えを書いたり、友達の考えに触れたりする活動をさらに取り入れていく。	学習活動の中で、様々な機会を捉えて、自分の考えをまとめて記述する活動を積極的に取り入れていく。特に授業の振り返りの活動において、教師が振り返りの視点を与えることにより、より思考を整理して自分の考えを書くことができるように支援したい。また、メモや必要な情報の抜き出しなど、自分の考えをまとめていくまでの段階も丁寧に指導したい。さらに、自分の考えを書く際には、字数や使用しなければならない語句など、条件に合わせて自分の考えをまとめることを意識させたい。互いの考えを伝え合うことで、思考の課程に自信をもったり、他者の考えからさらに自らの考えを深めたりすることができるよう指導したい。